

地域の絆で「震災」を乗り越える

互いを思いやる仮設入居者のつながり

仮設住宅訪問で、この暑さの中にお年寄りが一人でおられ、「電気代が心配だから」と、エアコンもつけずにいる姿をよく目にします。熱中症にならないかと心配です。

仮設住宅入居者などからお聞きする意見・要望としては、「2年後には仮設を出ないとダメと行政から言われている(※)が、2年後どうするかはメドは全く立たない」、「国民年金暮らしで、お金の余裕もないので、この地域に安い家賃で入れる復興住宅をぜひ建てていただきたい。私の土地を提供してもよいので、ぜひお願いしたい」、「この地域に住み続けたい。この地域を離れたくない」という方が圧倒的多数です。

国・行政にこれらの要求・意見を伝えて、被災者の方々やお年寄りの方たちの思いに寄り添えるような政治実現のために、大きな運動を起こしていきたい。

仮設住宅は同じ向きで並び建つため、自分の洗濯物干し場の前は、隣の棟の方の玄関前です。「気にならずに洗濯物を干せない」とい

う方が多くいます。

「洗濯物干し場の目隠しになるシートなどの配布を県・市町がすべきではないか」「お年寄りで設置困難なお宅もあり役所が設置してほしい」と行政に伝えてきましたが、まだ実現できていません。

なかには、ご自分で目隠しのシートを購入し設置されている方もおられます。また、お年寄りの方が「被災した自宅に洗濯物を干すために出かけ、また取り込みに行っている」という話も聞きます。こんな思いをさせることなく、被災者に寄り添える行政に変えていきたいと思えます。

仮設訪問をして要望を聞いていると、コミュニティの大切さを実感します。

仮設でミニお渡し会を開催した時、「あの人が出てきていないね。私、声をかけてくる」など、みんなが支えあって生活してきたんだなど、つくづく感じます。

このつながりがあるから、「この地を離れなくたくない。この震災をみんなの力で、何としても乗り越えていきたい」という思い

が強いのだと感じました。

※国は、「特定非常災害の指定」が行われた災害などの大規模な災害に限り都道府県知事と国との協議・同意を通じ、被災地の被災や復旧・復興の状況、被災者の住まいの確保の状況等を踏まえ、必要が認められた場合には、一年毎の期間の延長により対応をする」としています。したがって、入居後2年で追い出されることはほぼありません。この期間に復興住宅の建設を急ぐことも当然必要です。

仮設訪問で、御陣乗太鼓があると誘われて

8月1日、輪島市の南志

見仮設を訪問していると、「このあと、名舟漁港で御陣乗太鼓があるよ。是非見に行つて」と誘われました。勇壮な御陣乗太鼓を見ることができ、能登のこの地で生きる力強さと、逞しさと誘ってくれるやさしさを感しました。

●御陣乗太鼓は、輪島市名舟町に伝わる郷土芸能です。1577(天正5)年、上杉謙信の軍勢が名舟に攻め込んだ時に、鬼や亡霊の面に海藻の髪を振り乱しながら太鼓を打ち鳴らす奇襲を仕掛け、上杉軍を追い払ったとされています。

県指定の無形民俗文化財に指定されています。

在庫残り少なく
支援物資
全国から
支援お願いします

◆お米 (23年産以降) ◆常温保存できるジュース類、お茶類 ◆レトルト食品 (カレー、スープなど)、缶詰、カップめん類、うどん・そば・そうめんなどの乾麺 ◆菓子類 ◆洗剤 台所食器洗剤、洗濯洗剤類、柔軟剤、シャンプー、リンス ◆ラップ類 (食品ラップ、アルミホイルなど) ◆トイレトペーパー、ティッシュペーパー、ウェットティッシュ ◆衣類 (新品の物) (男性用・女性用肌着 Tシャツ など衣類全般)